

今、高校生が考える生成AIとの付き合い方 —「誤情報・偽情報」を超えた活用法を考える—

開催地：新潟

グループ： 5班

2024.8.8

## 生成AIとの共存

# 高校生が考える生成AIの活用場面

- ・国語等の作文を作ってもらおう

- ・翻訳を英語の勉強に生かす

→勉強が苦手な人にいいかも？

- ・AIとの会話、相談

→人と会話するのが苦手な人や、高齢者で一人で暮らしている人がリフレッシュがてら会話や相談するのもいいかもしれない

# 高校生が考える生成AIの活用場面

- ・文化祭の紹介PV
  - ・絵の一部を生成してもらう
  - ・画像から動画を作成する
- 絵や動画の作成が得意ではない人でも気軽に作る事ができそう
- ・仕事でのAIによるサポート(機械等)
- 色々な場面で使われていそう？

# 生成AIによる誤情報、偽情報の特徴と対策

- ・生成AI特有の画像の違和感  
(背景のゆがみ、不自然な構造)
- ・情報源の信頼性
- ・情報の真偽が不安なら自分でも一度調べる
- ・知らないことは、信じてしまう可能性がある  
→なにもかもを信じすぎない
- ・偽情報が簡単にわからないように作られている

# 誤情報・偽情報との関わり方

- ・普段から生成AIを活用し練習する  
→将来使いこなすことができるようになるため
- ・自分が使い慣れることで、誤情報や偽情報を見極める目を養う
- ・情報をすべて鵜呑みにしない→参考程度の使い方

# 提言

- ・授業内での生成AI活用の機会を増やす
- ・誤情報や偽情報の危険性、それらの見極め方について学べる、知る事ができる場の提供
  - 授業の取り組み、講義など
- ・生成AIを実際に触れることのできる機会を作る
  - 学生だけでなく、社会人の方や高齢者向けの機会の提供

ご清聴ありがとうございました！

